

県立市川特別支援学校の実践について

協議の記録

Q1：「できた！わかった！やってみよう！」のハンドブックは、具体的で、とてもわかりやすく、よいので参考にしたい。事例集を継続する予定や今後の活用の方向性があれば教えてほしい。

A1：「教材教具ハンドブック」は、本日の資料の事例の他にも、「携帯アプリの紹介」や「文字の合成」などいろいろな資料があり、今後もそれをカラーでファイリングして職員がいつでも見ることができるところにおいておきたいと考えている。新年度も異動してきた職員に見てもらえるようにしていく。

今回のハンドブックは、解説の文字が多く情報量が多いので、もう少し整理し写真だけでも参考となるので、方法を変えて教材・教具の提示をしていきたいと考えている。

Q2：授業の手立てとしての教材・教具の準備と学習評価の関係を、学校としてどのように押さえて実践しているのか、工夫した点や心掛けた点があれば教えてほしい。

A2：本校のライフステージ研修（1～3年目、5年目、7年目、11年目）と校内研究を合わせると年間40回ほどの授業研究を行っている。指導案に「教材・教具の工夫」という項目を入れている。写真だけではなく、どういうところを工夫したのかを書いて授業を展開している。協議会の時には、その教材・教具がその授業に適していたのか、子供の実態にに応じていたのか、さらに工夫した方がよい点などポイントをしぼって協議している。教材・教具を作りっぱなしではなく、その次にどうしたらよいのか、教材ありきでなく、教材を進化させていくものでもある。教材がなくても子供が学習取り組める工夫をしていきたい。

室長の講評

研究成果は、大きく2つある。

1つ目は、教材・教具を開発し、結果としてハンドブックをまとめていただいたこと。

別冊資料にも掲載しているが、写真も説明もとてもわかりやすく、先生方が作ってみよう、明日から参考になる、と思える内容である。もちろん保護者にも参考になるのではないかと。そして、子供たちにとって、こうした教材を使って学ぶことで、主体的に頑張れた、またやりたいという気持ちになるのではないかと。

ぜひ、今後も、このハンドブックをさらに中身を充実して、県内各地の特別支援学校、また地域の小・中学校等に紹介していただきたい。

2つ目は、客観的な評価の視点や指標についてである。

新学習指導要領において、「子供たちが何を学んだのか実感できる学習評価が大切である」と示されている。学校として「子供たちに身に付けてほしい力」、目標を明確に定め、全教員で共通理解をして、即時評価や事後評価を効果的に設定したり、子供が評価を受ける機会を設定したりしながら、今後も学習評価の方法を深めていってほしい。そして、その評価の指標を活用することでよりよい授業づくりにつなげていただけることを期待している。